



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●小さな足でなにをする？

—イトアシガニの仲間—

だんだん寒くなってきました。内地ではそろそろカニのおいしい季節です。ケガニ、ズワイガニ、ガザミ、タラバガニ、いずれも冬が旬で、ゆでたり鍋にしたり、好きな人にはたまらない季節になりました。ところで、みなさんの中にもこの4種のうち1つだけ仲間はずれがまざっているのがわかる人も少なくないでしょう。そうです、その仲間はずれはタラバガニです。ほかの3種がれっきとしたカニの仲間なのに対して、タラバガニはヤドカリの仲間です。簡単に見分けるには、足の数を数えればよくて、「はさみ以外の足が片側4本なら普通のカニ、3本ならタラバガニ」ということを知っている人も多いと思います。さて、そこで、今回紹介するカニです。

マジノハマで見つけたカニなのですが、上の写真を見てみてください。カニにしては足の数が少ないでしょう。左側は1本とれてしまっているのですが、右

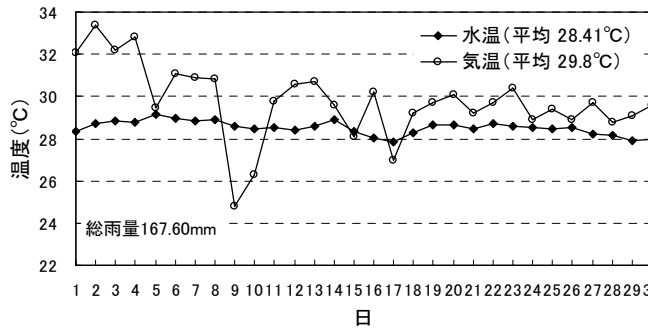
側は正常です。はさみを除くと3本しかないように見えます。ということは、これはタラバガニの仲間なのでしょうか。いえ、実はそうではありません。よく目をこらしてみると、甲らの上に小さな突起が見えます(写真1)。これが4本目の足なのです。名前はまだきちんとわかりませんが、4本目の足が小さいという特徴からこのカニはイトアシガニの仲間だろうと考えています。



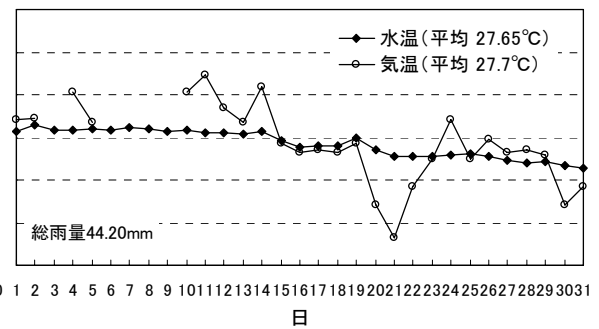
さて、このイトアシガニの変な形の足ですが、似たように小さな足を持つカニがほかにもいます。それは、ヘイケガニの仲間やカイカムリの仲間です。これらのカニではうしろの3本目と4本目の4本(2対)の足が小さいのです。では、この小さな足は、何かの役に立つのでしょうか。歩くのには役に立ちそうもありませんが、ヘイケガニやカイカムリにとってこの足はとても大切なもので、貝がらやカイメンを背負うのに使います。そうして周りの景色に溶け込んで身をひそめるのです。以前、内地でサメハダヘイケガニを飼っていたことがあります。自分の甲らよりもはるかに大きな貝がらを4本(2対)の足でしっかりとつかんで背中に背負いこんでいて、外から見ると足の先がちょっと見えるだけでした。このカニは、砂底にすんでいて、そうして貝が

定点観測

2007年 9月



2007年 10月



らを背負っていれば、穴ぼこや岩かげがないときでも、敵から身をかきすことができるのです。また今年の夏、サンゴの産卵調査のためにマジノハマで夜もぐっていると、甲らの幅が 15cm をこえる大きなカイカムリ（オオカイカムリだと思います）が、ヤギ（ソフトコーラル）の群体を背負って海底をのそのそ歩き回っていました。見たところ、やはりうしろの 4 本（2 対）の足でヤギをつかんでいましたが、そもそもそのヤギはカイカムリが自分で海底からはぎ取ったものなのか、それとも偶然ひろったものなのか、とても不思議に思いました。残念ながらそのときは、写真も撮れず、採取して詳しく調べることもできませんでしたが、またいつか出会えることができればいいなと期待しています。

さて、このようにヘイケガニやカイカムリは小さな足を物を背負うのに使っていますが、ではイトアシガニの足はどうなのでしょう。本を調べても、このカニが何かを背負うとは書いてありません。けれどもとりあえず実験です、貝がらのかげらを水槽に入れてみました。すると、数時間後には見事に貝がらを背負っています（写真 2）。そして、そのとき貝がらをつかまえているのは 4 本目の小さな足でした（写真 3）。やっぱり、この小さな変な形の足は、物を背負



写真 2

って身をかきすのに使われるものだったのです。

モクズシヨイのように体にゴミなどをくっつけたり

（アムスルだより No.56）、カルイシガニのように別のものに姿を似せたり（No.69）、今回のカニたちのように物を背負ってみたり、カニたちの身のかきし方は本当にあなどれません。



写真 3

● 阿嘉島の海より

10月22日、阿嘉小中学校の生徒達（小3から中3）とサンゴの移植をおこないました。移植したサンゴは去年の6月に産まれた卵を養殖いけすで育てたもので、子供達が産卵からずっと観察してきました。それらのサンゴがじゅうぶん大きく育ったので今回いけすから自然の海へもどすことにしました。海中での移植作業は子供達にはまだ無理なので、今回もダイビング協会の方に手伝っていただきました。子供達はサンゴの付いたプレートを一枚ずつ持って移植場所まで泳ぎ、プレートをダイバーに手渡しました。それをダイバーのみなさんが水中ボンドを使って海底に固定してくれました。他では決してできない貴重な体験だったと思います。

